

【用語】中町—室田宿の中町のこと、群馬郡榛名町 市立—市を開業する 石座—穀座、米穀を扱う座 知頭—地頭、ここでは旗本本多氏居座—座の指定場所 弥々—ますます 如件—前記のとおり 理—道理、わけ 裏判—訴状の裏に役人が押した確認印 目安—訴状 停止—禁止 出来—事件の起こること 才覚—機転、工夫 月行事—月交代で市の世話をする役 下知—上から下へ指図すること、命令 所を追払—居住する村から追放する

【解説】群馬郡室田村は信州街道の継ぎ立て場であり、ここに市が開かれるようになったのは、文書の初めに寛文十年（一六七〇）より五〇年前とあることから元和七年（一六二二）といわれ、その時、居座の配置場所も定められたようである。しかし、寛文年間頃に下町市場内の石（穀）座の指定場所をめぐって紛争がおこった。発端は下町の四兵衛が指定場所を無視して、石座商人を自分の屋敷前に引き付けて商売させ、従来の石座の制を乱したためであった。これを市場衆が問題とし、幕府代官へ訴えて争いとなったが、地元の寺院や室田上下の名主・年寄が扱ひ人となって決着した。

この文書は裁許の際に改めて作成された石座の規定である。後略部分では一四人の市場衆が規定の遵守を誓約している。なお、市場居座の具体的な配置については、この時に作成されたと推定される絵図（中厚写真参照）があり、本文書とともに榛名町指定の重要文化財として現在、榛名町歴史民俗資料館に保管されている。